

サッカースタジアム等整備事業の実施設計概要



1 サッカースタジアム等の概要※

●所在地：広島市中区基町15（中央公園広場） 中央公園広場全体の面積：約85,600㎡

(1) サッカースタジアム

観客席	28,520席	構造	躯体	RC造／ 一部SRC造
敷地面積	49,925㎡	(耐震構造)	屋根	鉄骨造
建築面積	26,477㎡		段床	PCa造
延床面積	67,253㎡		基礎	杭基礎
規模	地上7階			
最高高さ	42.2m	駐車場		244台

(2) 広場エリア

整備面積	35,675㎡	園路幅員	6m～8m
芝生広場	11,938㎡	地盤レベル	T.P.+4.4m超

(3) ペDESTリアンデッキ

東側	幅員	道路横断部及び東側斜路:8m 北側斜路:4m／階段部:1.5m
	整備概要	階段・スロープ・車いす用EV(定員24人、屋外用)
南側	幅員	道路横断部及び斜路:10m／階段部:1.5m
	整備概要	階段・スロープ・車いす用EV(定員24人、屋外用)

(4) その他

園路	ファミリープール東側	歩道幅員: 2.5m～10m	北側市道	歩道幅員:4m
	広島城北側	歩道幅員:4m	駐輪場	1,640㎡

2 配置計画

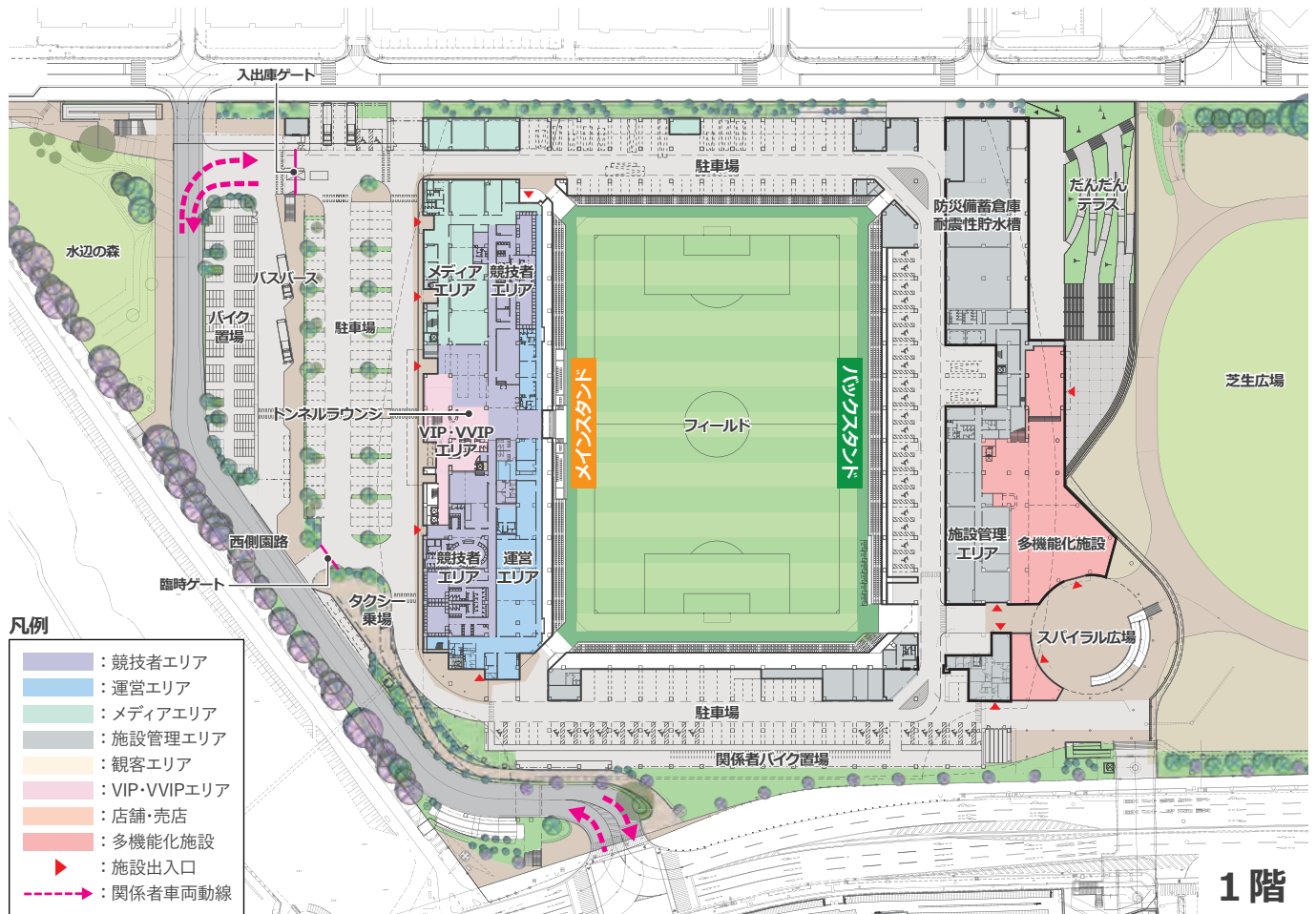
●中央公園広場の西側にスタジアムを配置し、東側に芝生広場を配置する計画とし、スタジアム2階のパークコンコースによって東側広場と本川河畔をつなぐことで回遊性を高め、にぎわいを創出



※実施設計時の計画であり、関係機関や広場エリアのにぎわい施設を整備するPark-PFI事業者との協議などにより変更となる場合があります。

3 平面計画

1 階 | 競技者 / VIP・VVIP / 運営 / メディア / 施設管理 / 多機能化施設 / 防災備蓄倉庫



フィールド

- ピッチサイズは68m×105mとし、天然芝エリアは78m×115mで計画した。その外側にメンテナンス通路として幅3mの人工芝エリアを設け、フィールド全体は計84m×121mを整備
- フィールドと観客席との幅は8mで整備

メインスタンド側 (西側) 諸室

- 動線を分離し、機能的な計画とするため、競技者関連、運営関連等の諸室を配置し、各専用の出入口を整備

競技者エリア

- 複数の試合開催に対応できるよう5ヶ所の更衣室を整備
- 女子大会開催に対応できるよう、独立したシャワー室を整備

VIP・VVIPエリア

- トンネルラウンジを計画し、入場選手を見ることができると特別感のあるエリアを整備

バックスタンド側 (東側) 諸室

- 施設管理関連、多機能化施設、防災備蓄倉庫などの諸室を整備

防災備蓄倉庫・耐震性貯水槽

- 高い防災機能を実現するため、防災備蓄倉庫、耐震性貯水槽及び本管途絶時に給水可能な受水槽を整備

多機能化施設

- 芝生広場と一体となってにぎわいをつくるため、多機能化施設を設ける空間を確保
- スタジアムと広場の連続性を高めるため、東側広場に面し、公園の拠点となるスパイラル広場を囲むように計画

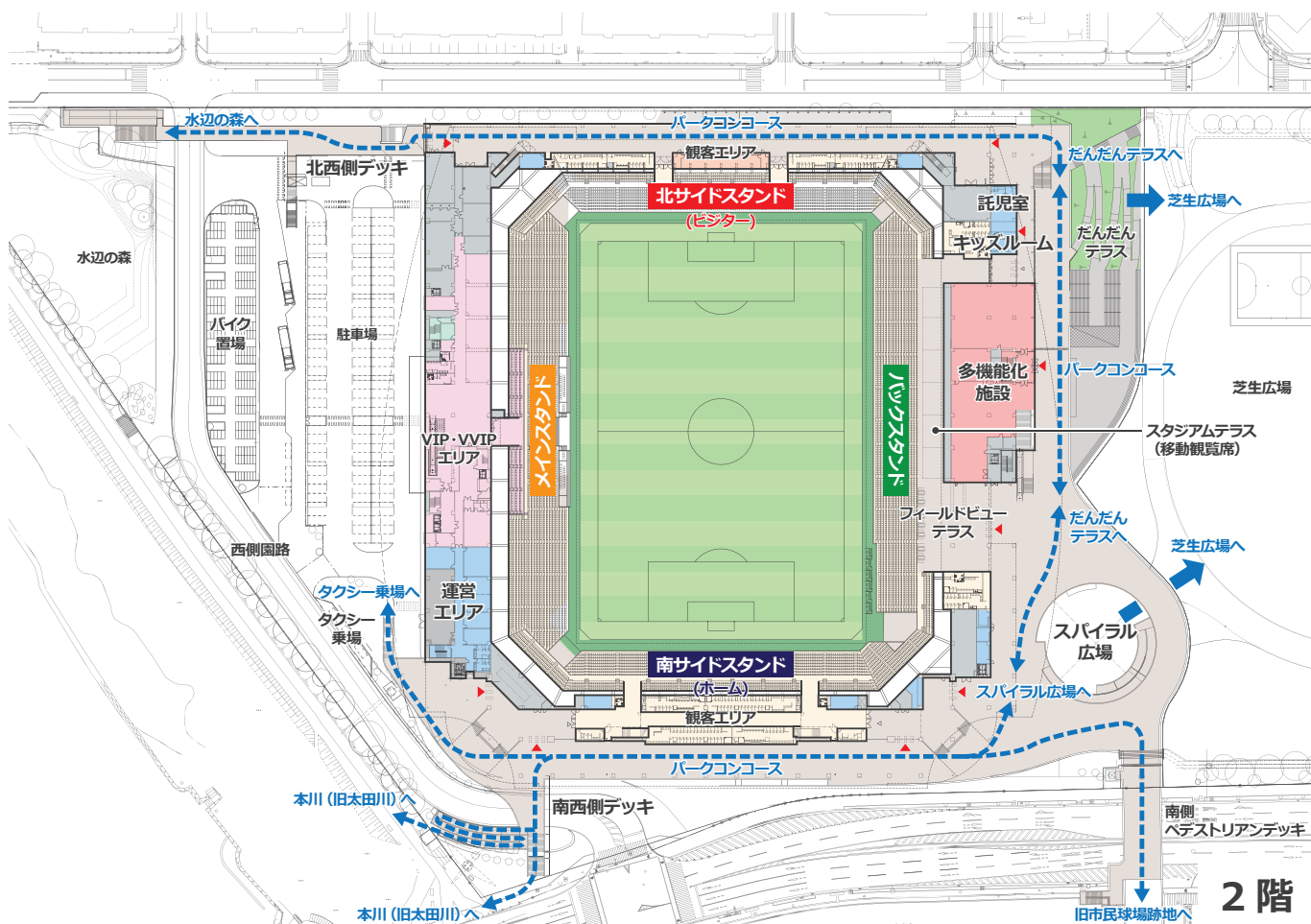
駐車場・バイク置場

- 試合開催時は競技者や運営等の関係者の専用利用、試合非開催時は有料駐車場とし、駐車場内は一方通行(右回り)とし、台数244台を整備
- このうち、車いす利用者用駐車場は、雨に濡れず各スタンドにスムーズにアクセスできるようエレベーターの近くに40台整備
- バイク置場は、300台を整備
- 環境に配慮し、夏場に緑陰をつくり路面温度を抑える落葉高木を植栽

駐車場での電気自動車充電サービス

- EV(電気自動車)・PHEV(プラグインハイブリッド車)の充電用スタンド10基を駐車場に整備

2階 | パークコンコース / 観客 / VIP・VVIP / 多機能化施設



パークコンコース

- 東側広場エリア、西側の本川（旧太田川）河畔をつなぎ、中央公園全体の回遊性を高めるため、4つのコーナー全てにスロープ・階段を設け、2階に幅員8m～10mのパークコンコースを整備
- 試合開催時には入場ゲートをつなぐ待機スペースとしても利用

VIP・VVIP

- セキュリティレベルを高めるため、来賓者と一般の観客との動線が分離可能な通路を整備
- 内装は、広島らしさでもてなす上質で洗練された空間を演出できるよう県産木材を用いて整備

多機能化施設

- 365日人々が集える施設とするため、カフェ・レストラン、スタジアムショップ等の多機能化施設を設ける空間を確保

スタジアムテラス

- 試合開催時にはバックスタンド席として、試合非開催時には奥行約7m×長さ約53mのオープンスペースとして活用が可能なように、段床と座席を壁面に収納できる移動観覧席を整備



移動観覧席 利用時



移動観覧席 収納時

フィールドビューテラス

- 飲食スペースや展示利用など様々なシーンに活用するため、多機能化施設に隣接しフィールドが見渡せるエリアを整備

キッズルーム・託児室

- 子ども連れの家族などが安心して観戦を楽しめるように、2階と3階を吹抜けとし、垂直方向につなげたキッズルームに託児室を併設して整備

3階|メインコンコース/観客/VIP・VVIP

メインコンコース(周回コンコース)

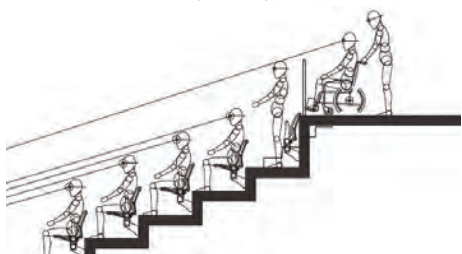
- 試合開催時には観客の主動線や飲食スペースとして、試合非開催時にはランニングコースやスタジアムツアーコースなどの利用ができる幅員10mの周回可能なコンコースを整備

観客席

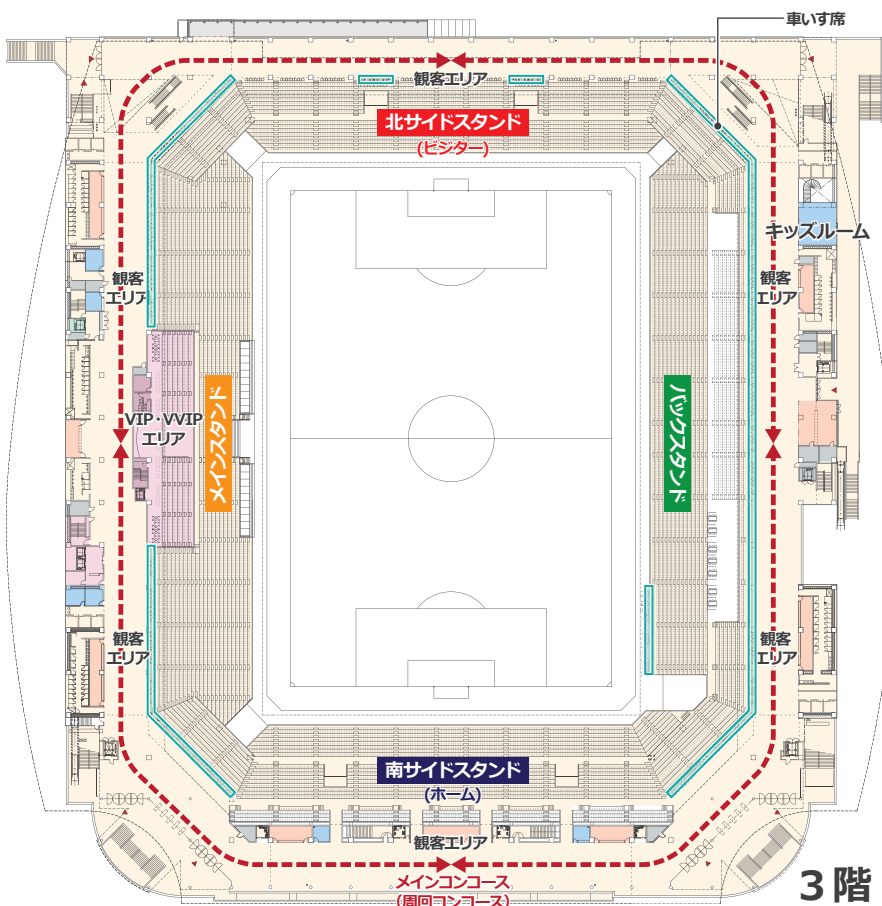
- 一般観客席は、通路幅90cm、座席スペース幅50cm・奥行85cmを確保することを基本として整備

車いす席

- 前列の人が立ち上がってもピッチが見えるように、メインコンコースのスタンド側に車いす席を整備



車いす席断面図



3階

4階|多様な観客席/バラエティシート

バラエティシート

- 多様な世代・属性のニーズに合わせた可変性のあるシートを設けることができる観客席を整備
- 車いす席としても利用できるカウンターシートを整備

スイートテラス:6室

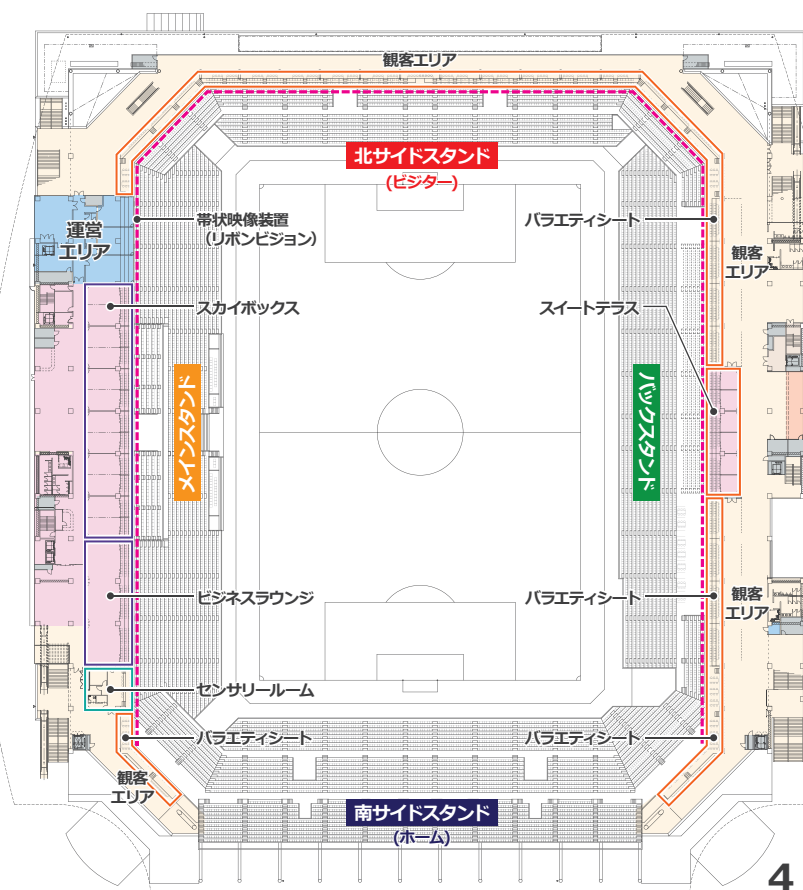
- 一般チケットでグループでの個室利用を可能とするスイートテラスをバックスタンド中央に整備

スカイボックス:12室・ビジネスラウンジ

- 個室として利用可能なスカイボックスを整備
- 可動間仕切りにより目的に応じた区画変更を容易にしたビジネスラウンジを整備

センサリールーム

- 新設スタジアムによる常設設置は日本初
- 感覚過敏の特徴がある子どもたちとその家族が安心して観戦できるセンサリールーム(個室)を整備
- 気持ちを鎮めるための部屋としてカームダウンスペースを設置し、同伴者と共に利用できる専用トイレも整備



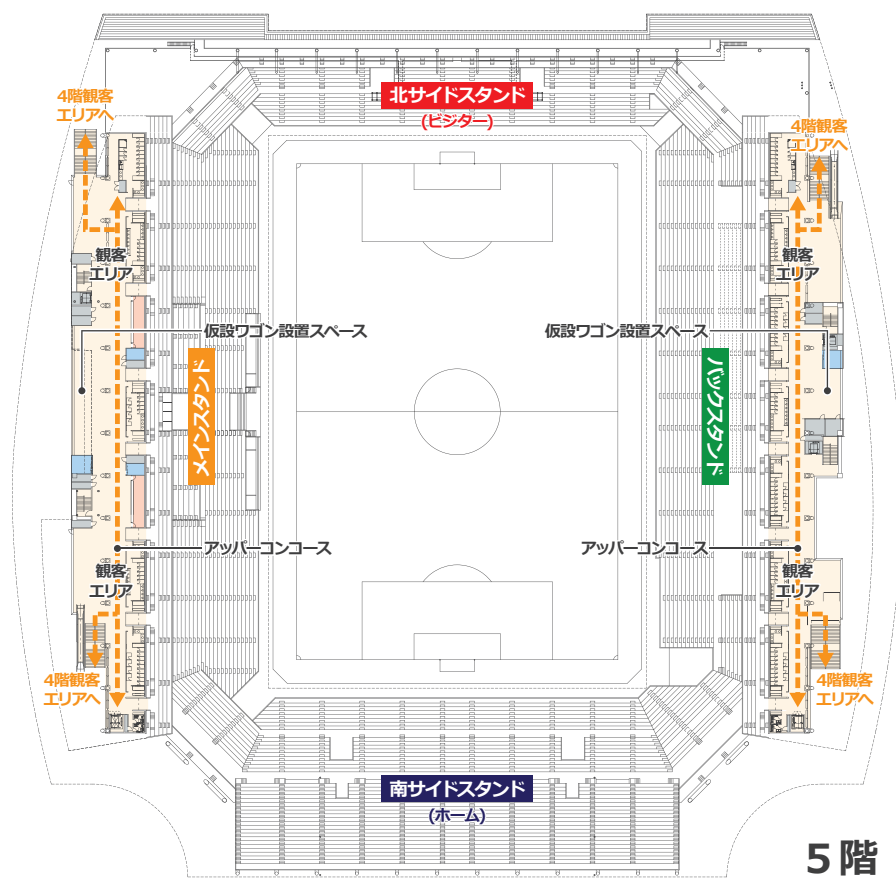
4階

5階|アッパーコンコース/観客 アッパーコンコース

- スタジアムに回遊性を持たせるため、3階メインコンコースに加え、5階にアッパーコンコースを2層目スタンドの主動線として計画
- 観客動員数や運営体制に応じて、売店面積の調整が可能なように常設の売店に加え仮設ワゴン設置スペースを確保

観客席

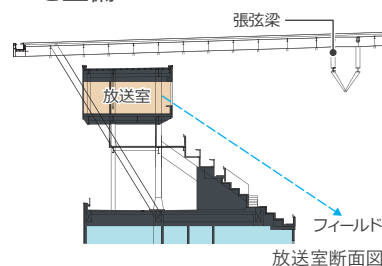
- サイドスタンドは、使い勝手に配慮し、希望する席を目視で探せる横通路型として整備



5階

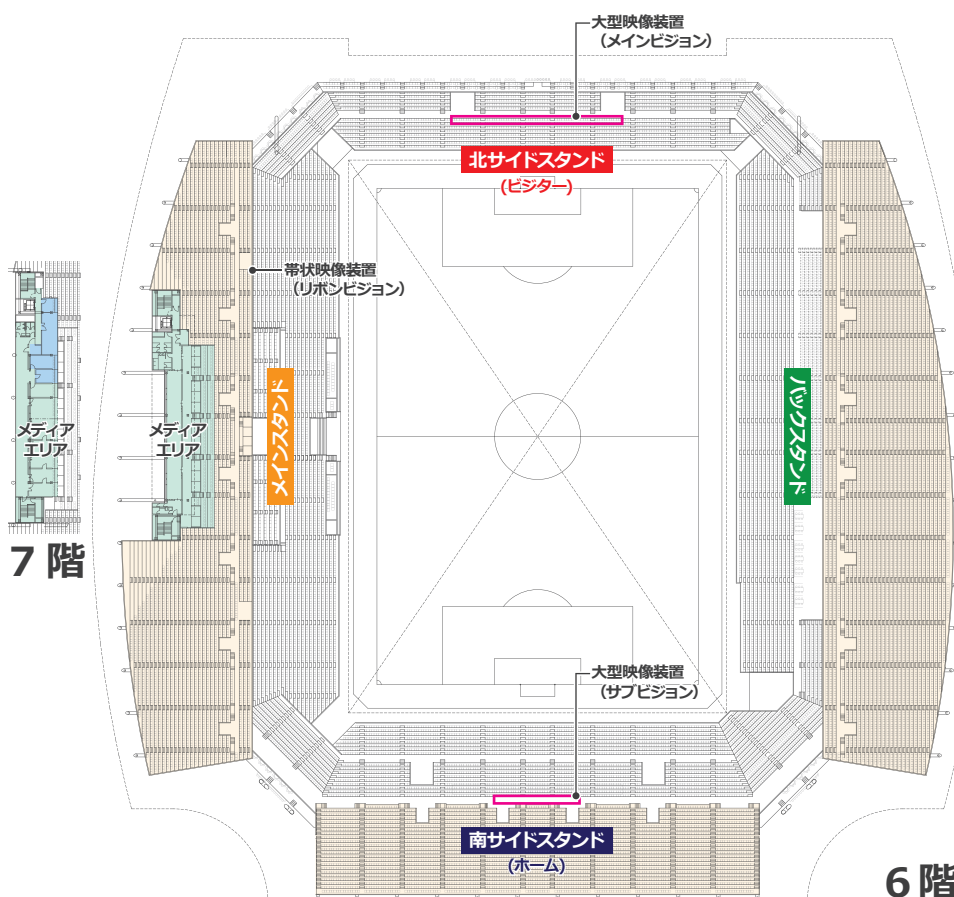
6・7階|観客/メディア メディア関連エリア

- 試合状況を見渡せるように視界に配慮された記者席や実況放送室などのメディア関連諸室を整備



大型映像装置

- 北サイドにはメインビジョン32m×9m、南サイドにはサブビジョン16m×9mの大型映像装置を1面ずつ整備
- 多彩で躍動感のある観戦環境を創出するため、4階観客席前の带状映像装置（リボンビジョン）を整備



6階

7階

4 立面計画

外観デザイン

コーナー部

- スタジアムのにぎわいをまちに発信し、天然芝のフィールドの生育にも配慮し、南側コーナーに大きな開口を計画

西側立面計画

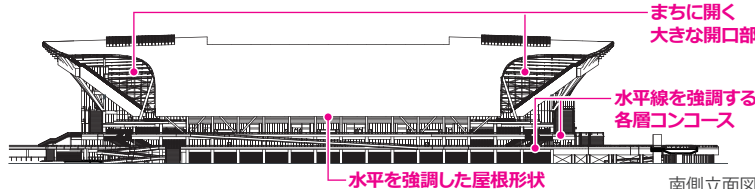
- 本川の川面を意識し、水平線を強調するため、側面に張り出したストライプ形状のデザインを計画

南側立面計画

- 水平線を強調するため、スタンドの裏側を各層のコンコースで分節することや、南側の屋根形状を直線上に計画



西側ファサード



南側立面図

5 スタジアムの特徴

ユニバーサルデザイン

- あらゆる人たち(車いす使用者、視覚障害者、聴覚障害者、知的・精神・発達障害者等、子ども連れ利用者、LGBTQ、高齢者、外国人利用者)が使いやすい施設を計画

a. 車いす使用者	b. 視覚障害者	c. 聴覚障害者	d. 知的・精神・発達障害者	e. 子ども連れ利用者	f. LGBTQ	g. 高齢者
 ・スロープ ・大型エレベーター ・車いす使用者トイレ ・トイレ緊急ボタン ・トイレ大型ベッド	 ・誘導ブロック ・点字表示サイン ・トイレ緊急ボタン ・音声誘導設備	 ・集団補聴設備 ・トイレフラッシュアップ ・点字表示サイン ・トイレ緊急ボタン	 ・センサールーム ・休憩室 ・カムダウンスペース	 ・授乳室 ・休憩室 ・ベビーシート ・キッズルーム ・子ども用トイレ	 ・オールジェンダートイレ ・同伴者とともに使えるトイレ ・トイレ緊急ボタン	 ・各所手すり ・見やすいサイン・色使い

本計画における取り組み内容一覧

車いす使用者用駐車場

- 1階に40台分の車いす使用者用駐車スペースを整備

電動車いす対応コンセントボックス

- 各エリアの車いす席に電動車いす用充電対応のコンセントボックスを整備

誘導ブロック

- 基町住宅側、国道54号、城南通りの既存誘導ブロックと広場エリアの園路まで連続するように整備
- 一般開放し、日常的に利用する2階の北側及び南側のパークコンコースは、ペDESTリアンデッキの誘導ブロックや広場エリアの園路から連続するように整備

集団補聴システム

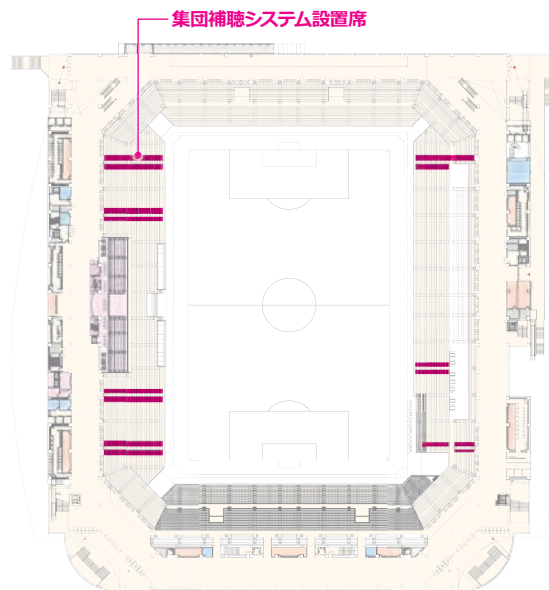
- メインスタンド、バックスタンドに合計907席の集団補聴システムを整備

バリアフリースイート

- スタジアム内のトイレは、車いす席・観客席から利用しやすいように男女別の一般トイレに加え、車いす使用者やLGBTQが利用できるバリアフリースイート30か所を整備
- 左利き用やストレッチャー対応等、様々な利用者を想定した6種類のバリアフリースイートを整備

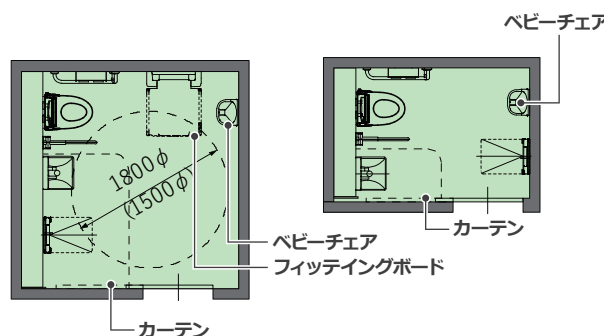
サイネージ

- 3階のメインコンコースのサイネージは、演出、トイレの混雑状況及び災害時などの避難誘導に対応するため、混雑時でも視認しやすい高さに整備



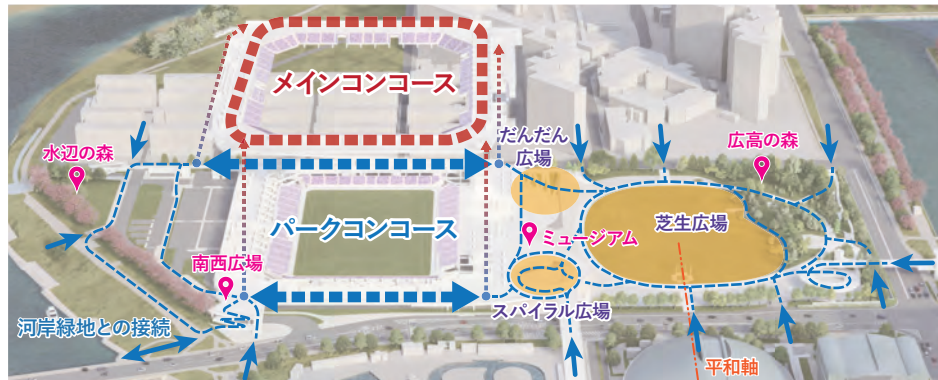
集団補聴システム設置席レイアウト(3階)

同伴者とともに利用できるトイレ(男女共用トイレ)



開かれた回遊型スタジアムパーク

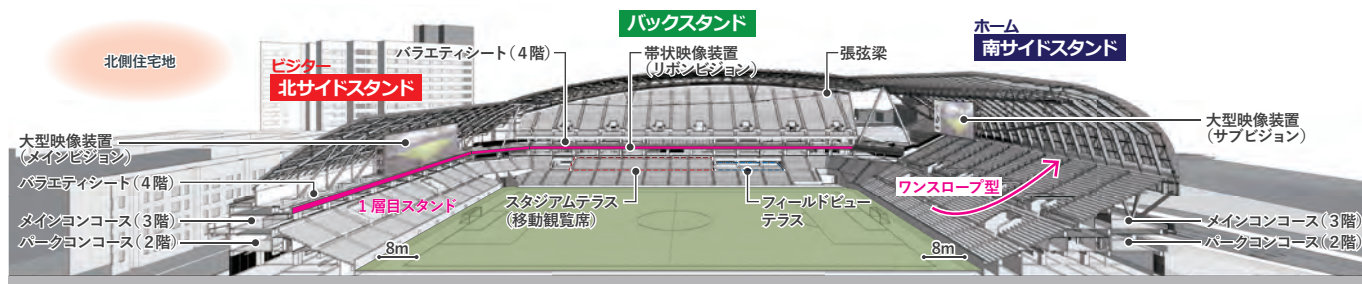
- 中央公園全体の空間づくりとして、広島城や旧広島市民球場跡地とペデストリアンデッキでつながるとともに、本川(旧太田川)の水辺空間との連携を行うことで、新たな回遊空間を生み出し、紙屋町・八丁堀地区ともつながる、にぎわいのある開かれた「街なかスタジアム」を実現



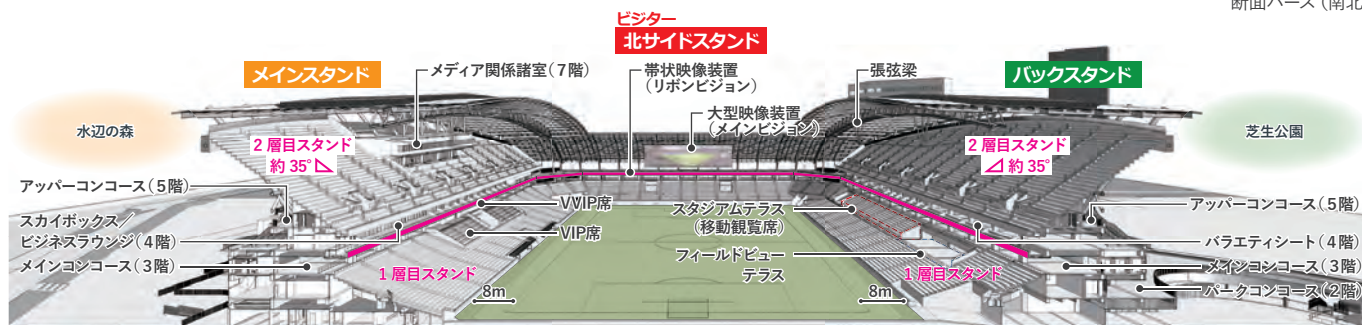
スタジアムと広場をつなぐダブルコンコース(コンコースを2層化)による遊環構造

スタンド計画

- 北サイドスタンドは下層スタンドのみ、南サイドスタンドはワンスロープ型とし、メイン・バックスタンドは2層式のスタンドを採用
- メイン・バックスタンド2層目の段床勾配は高い位置からでも観客が試合を見やすいよう、約35°で計画
- 2層目のスタンド勾配を大きくすることで観客と選手の距離を近づけ、より一体感を演出する計画
- バック・北サイドスタンドを中心にバラエティシートを設け、メインスタンド側は、バルコニー席を持つスカイボックスやビジネスラウンジを配置



断面パース (南北)



断面パース (東西)

多様な観客席

- 客席数は、合計28,520席を設ける計画。また、スカイボックスやカウンターシートなど、多様な観客席を各所に設けることで、ニーズに合った観戦環境とスタジアムのにぎわいを創出



スカイボックス(4階:メインスタンド側)



カウンターシート(3階:バックスタンド側)

環境・省エネルギー計画

15の技術を結集した先端エコスタジアム

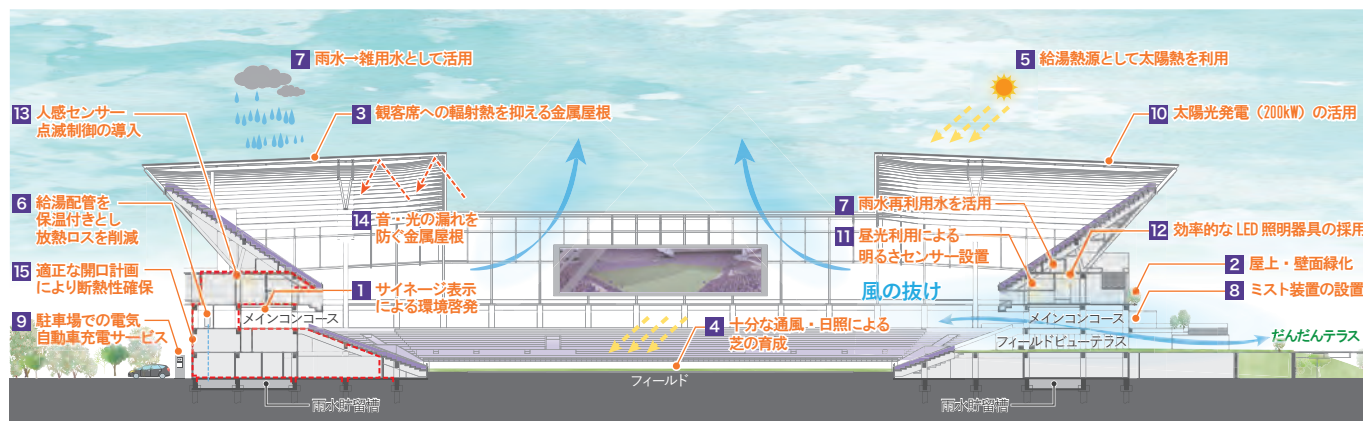
- エコスタジアムを実現するための工夫により、コストを抑えつつ効果的に環境負荷を低減する環境共生型スタジアムとし、BELS☆☆☆☆☆、ZEB Ready、CASBEE Sランクを達成

SDGs を見据えた国際基準となるスタジアム

- 世界に発信できるスタジアムを整備し、スポーツを通して持続可能な社会を実現



SDGsの取り組み



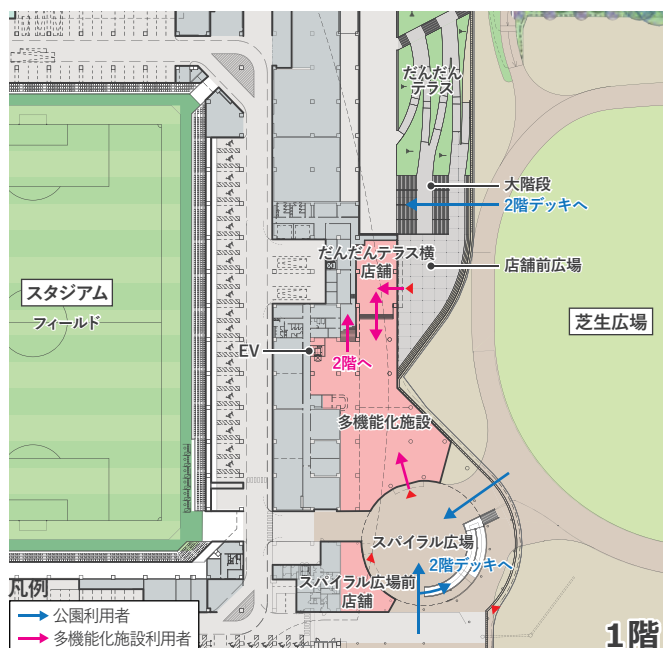
環境技術イメージ

多様な利用

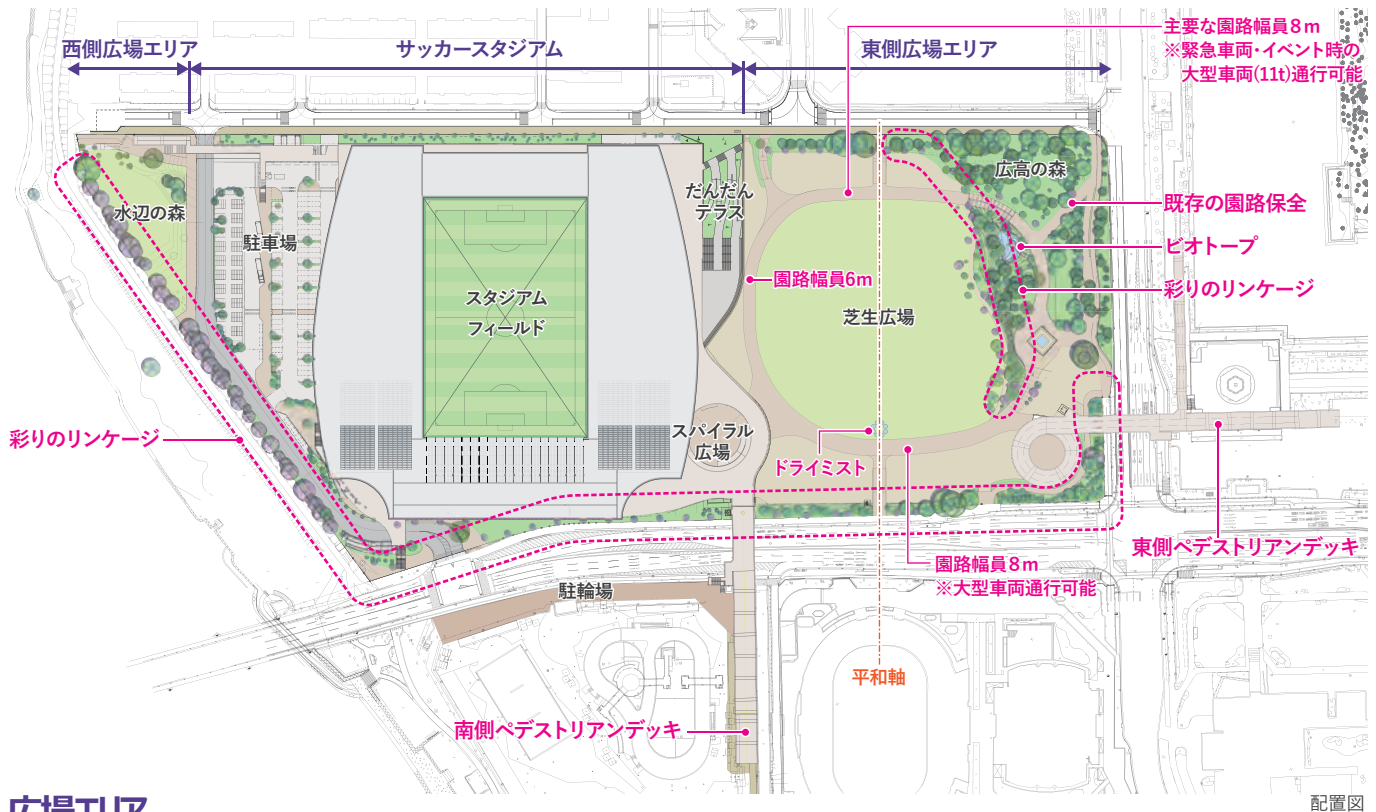
- 「フィールド」は、サッカー以外にもスポーツイベントなどにも対応
- 試合開催時には飲食サービスやグッズ販売、試合非開催時にはミュージアム、スタジアムツアーの拠点となるよう、1階及び2階に「多機能化施設」を設ける空間を確保
- メインコンコースは、試合非開催時にランニングやスタジアムツアーのコースなどに利用
- 「スカイボックス」や「ビジネスラウンジ」は試合非開催時に会議室やイベント空間として利用

多機能化施設

- 公園全体のにぎわいを誘発するため、広場と一体利用ができる芝生広場に面した位置に1階1,470㎡、2階800㎡の合計2,270㎡を確保



6 広場エリア・ペDESTリアンデッキ



広場エリア

防災や環境に配慮した次世代の都市公園

- 都市の防災公園としての取組みに加え、スタジアムと広場を環境配慮、ユニバーサルデザインで一体的に計画し、スタジアムと広場エリアが連携したにぎわいを創出

芝生広場

- 東側広場の中央に市民の憩いから多様なイベントの開催などが可能な天然芝エリアを整備

だんだんテラス

- 広場とスタジアム2階をつなぐ段々状の形式の階段・スロープを整備

スパイラル広場

- 弧を描くスロープで立体的に構成したエントランス空間となるスパイラル広場を整備

ピオトープ

- 既存の森の中に水辺空間を設け、生きものが生息しやすい環境を整備

広高の森

- 既存樹を活かし、くつろぎの場と散策路を整備

彩りのリンケージ

- 華やかな彩りのある空間を演出するため、桜並木の保全や四季を通した花木を植栽



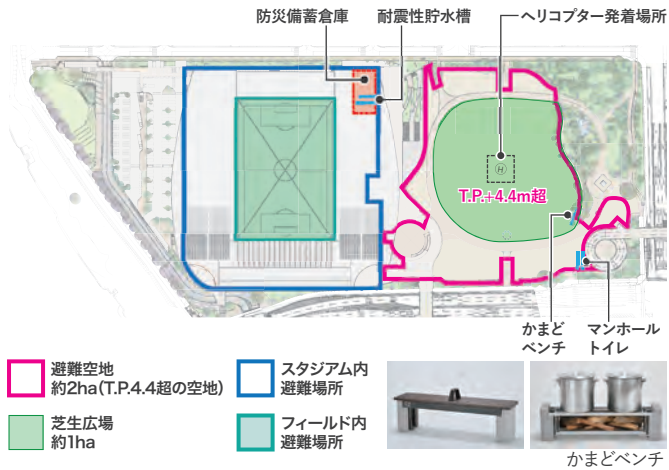
防災・避難計画

インフラ途絶時も 72 時間の安全な避難生活が可能

- スタジアムと広場が一体で、指定緊急避難場所として洪水や高潮などの風水害、地震、大火に対し、発災から概ね3日間(72時間)の避難者受入れ場所として計画

発災時の避難場所

- 約2ha (T.P.+4.4m超の地盤レベルの空地面積) の東側広場エリアを避難場所の対象とし、広場の中央部にはヘリコプターの発着が可能
- フィールドを含めたスタジアム内も避難場所として利用可能

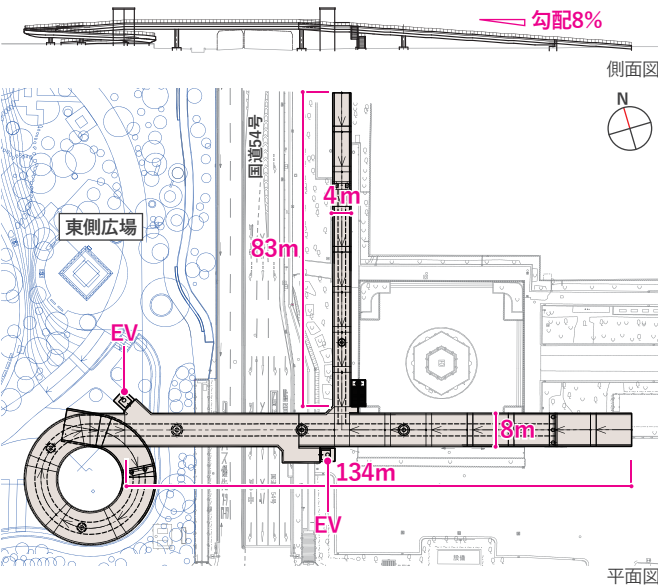


給水	・上水系統の受水槽に緊急遮断弁を設け、給水管破裂による水源喪失防止 ・受水槽近傍まで給水車が寄り付き、市水本管途絶時に給水可能	トイレ	・インフラ途絶時に避難者が3日間トイレの利用が可能 ・マンホールトイレの整備
雑用水	・雑用水は3日分の貯留を行い、災害時にも継続して利用が可能	ガス	・ガス設備は大地震(震度6弱)に十分耐えられる中圧ガスを引込む
電力	・常用・非常用発電機による72時間運転可能	浸水冠水	・電気室、発電機室は2階に設置し、機能停止を防止 ・1FLをTP+4.4m超とし浸水に対応したレベル設定
避難	・サインネージに避難経路等を表示し、聴覚障害者も安全に避難が可能	EV	・火報連動、非常用電源に接続した避難用EV(南東・南西)は災害時も利用可能

ペDESTリアンデッキ

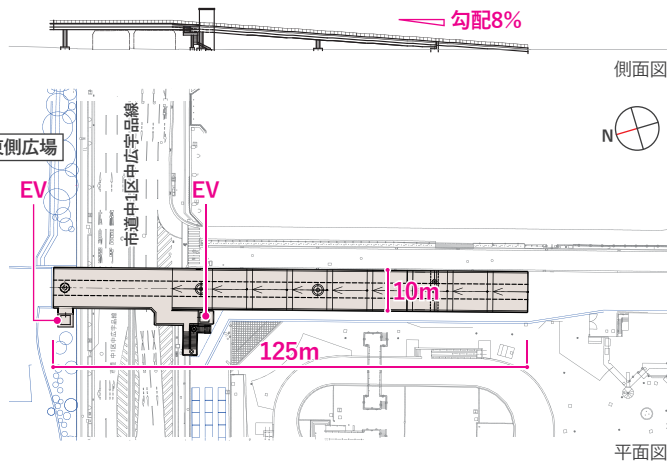
東側ペDESTリアンデッキ

- 国道54号を横断する有効幅員8m(東側)、4m(北側) のペDESTリアンデッキを整備
- 階段・スロープ・車いす用EV(24人乗り)を整備



南側ペDESTリアンデッキ

- 市道中1区中広宇品線を横断する有効幅員10mのペDESTリアンデッキを整備
- 階段・スロープ・車いす用EV(24人乗り)を整備



7 スケジュール (予定)

令和3年度(2021)	令和4年度(2022)	令和5年度(2023)	令和6年度(2024)
1~3月	4~3月	4~12月	1~3月 4~6月 7~9月
スタジアム工事開始		スタジアム完成	一部開業 全体開業
実施設計	スタジアム工事	ペDESTリアンデッキ完成	
準備工事	ペDESTリアンデッキ工事	広場エリア完成	
		広場エリア工事	